



0

6	物流事業者(ヤマト運輸)が訪日外国人旅行者向け食品小口宅配サービス(HOP1)で、台湾に配送する
---	--



7	台湾側で食品検査後、海外物流事業者(台湾ヤマト)が荷物を受け取り、台湾国内の物流で訪日外国人旅行者の自宅まで配送する
---	--



8	訪日外国人旅行者が、自宅で荷物を受け取る
---	----------------------

このモデルの特長は、日本国内の青果販売事業者で購入し、指定日に海外の指定場所(自宅等)に届けて、商品の受け渡しをおこなうモデルである。青果販売店で農産物を購入した訪日外国人旅行者は受検済の状態かつ自宅で商品を受け取れるため、もっとも荷物の負荷が少ないモデルである。

・モデル販売の関係者リスト

販売事業者 (検疫受検代行者)	(株)HICインターナショナル	TEL : 03-5282-2416
物流事業者 (検疫受検代行者)	ヤマト運輸(株)	TEL : 011-891-5040
引き渡し者	ヤマト運輸(株)	TEL : 011-891-5040

旅行会社	○JTB(THAILAND) LIMITED ○タイ・インドネシアの旅行会社 (ミラマー、ジョイフルホリデー、ATS)	http://jtbthai.com/
-------------	--	--

・実績

(図表11) 北海道のモデル販売の実績

	ツアー数	客数	購入者数	販売数	購入率
バス車内販売	4	65人	33人 (タイ)	33箱 (メロン)	約51%
HOP1※ (青果店の店頭販売)	—	—	2人 (台湾)	6箱 (メロン)	—

※訪日外国人旅行者向け食品小口宅配サービス

・モデル販売における成果と課題

北海道のモデル販売において、以下の成果があった一方で、いくつかの課題もみつかった。
以下のとおり、成果と課題を整理する。

《成果》

■タイ・インドネシア向け

・訪日外国人が日本滞在中は手ぶら観光をした上で、新千歳空港の物流事業者の荷物預かりカウンターで検疫済みの商品を受け渡す仕組みが実現できた。

■台湾向け(HOP1※)

・青果販売店が販売した農産物を物流事業者が検疫代行した後、海外の自宅まで商品を届ける取組を試験的に実施することができた。

《課題》

■タイ・インドネシア向け

・新千歳空港の物流事業者の預かりカウンターで生ものを預かるのは原則可能である。ただし、空港に冷蔵設備がないため常温保存が可能な農産物のみに限定される。

■台湾向け(HOP1※)

・検疫上の課題ではないものの、台湾への小口貨物としての輸出の際、台湾側でのFDA検査(食品検査)時に、台湾における基準値以上の農薬が検出されたことにより、食品検査不合格となった事例が出てしまった。

→このため、台湾向け農産物については、食品検査がある場合に備え、台湾側の残留農薬基準を考慮した栽培方法を検討する必要がある。

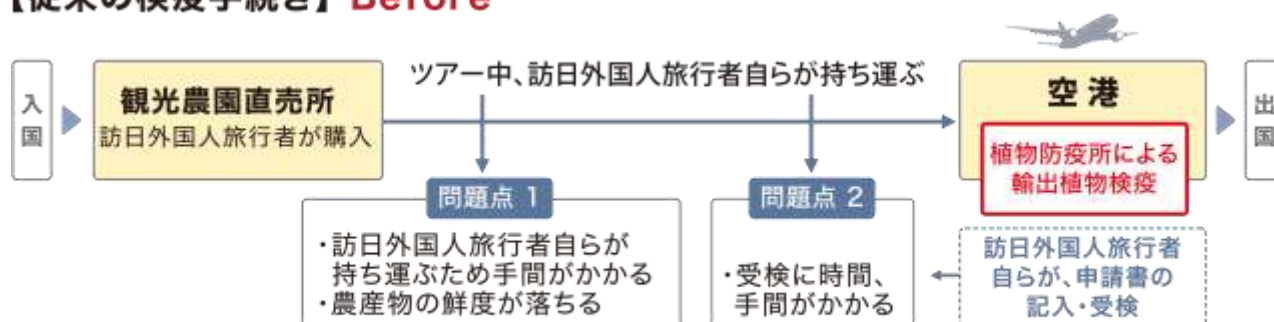
※訪日外国人旅行者向け食品小口宅配サービス

2.2.2福岡県での取り組み

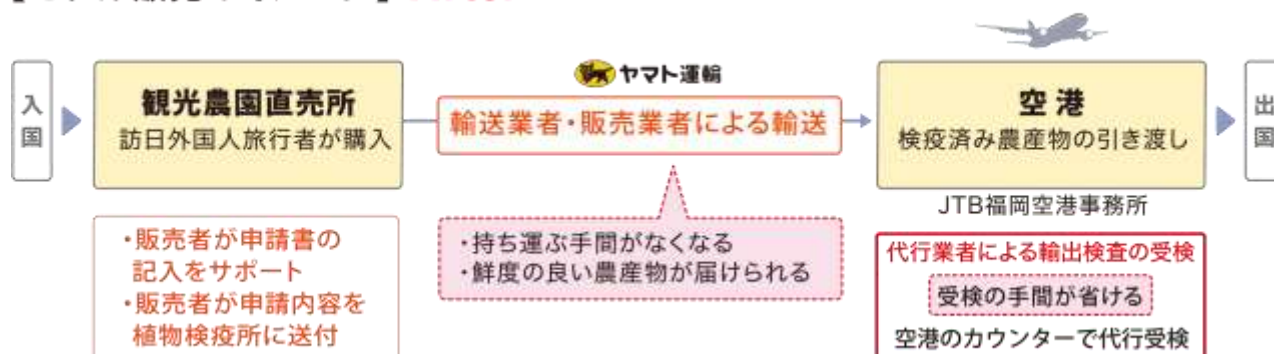
・モデル販売のフロー

従来の検疫手続きでは、「訪日外国人旅行者が旅行中に、荷物を持ち運ぶ手間がかかる」、「持ち帰るまでに農産物の鮮度が落ちる」、「受検の手続きに手間がかかる」等の問題点があった。そのため、これらの問題点を改善するために以下のモデル販売を実施した。

【従来の検疫手続き】 Before

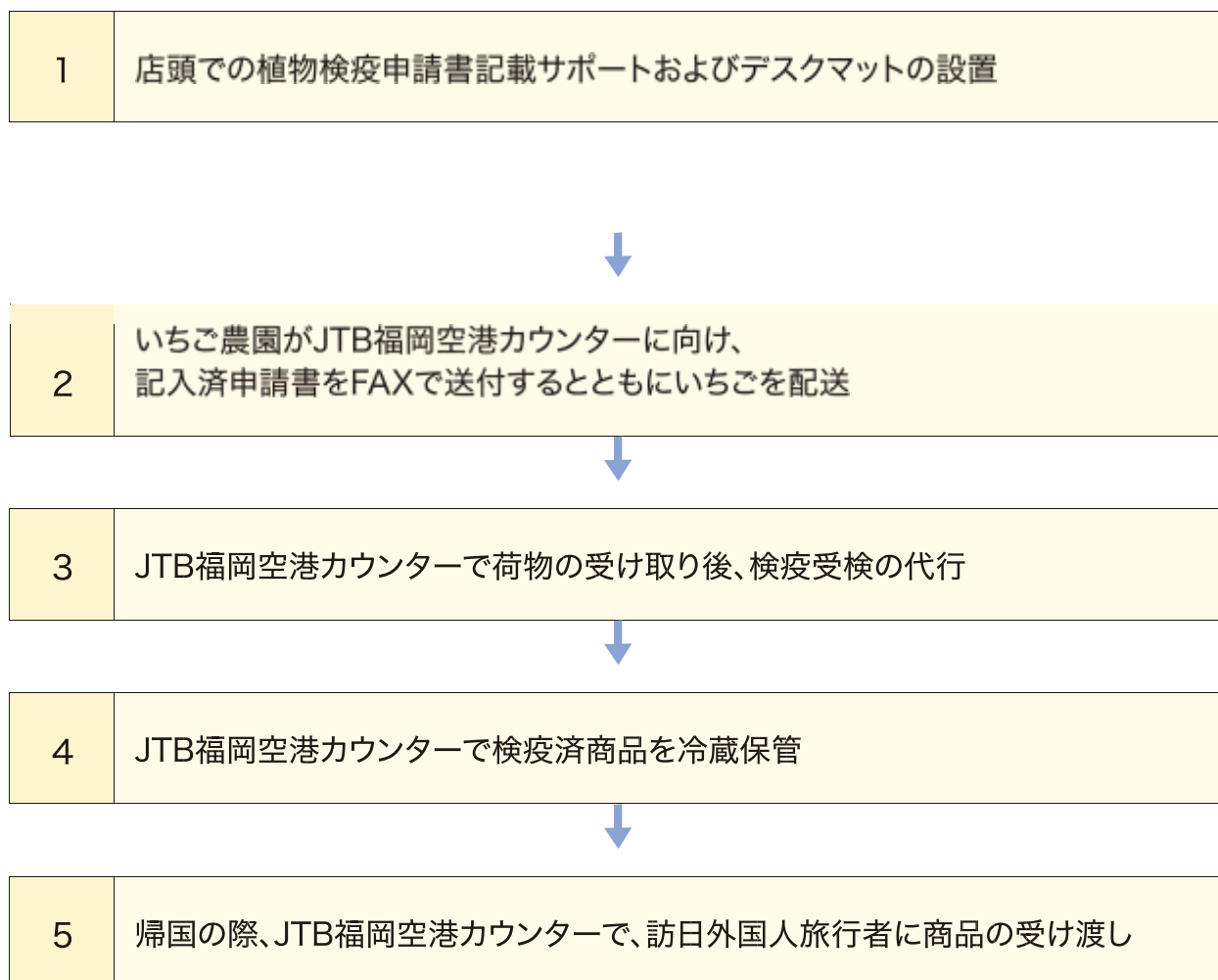


【モデル販売のイメージ】 After

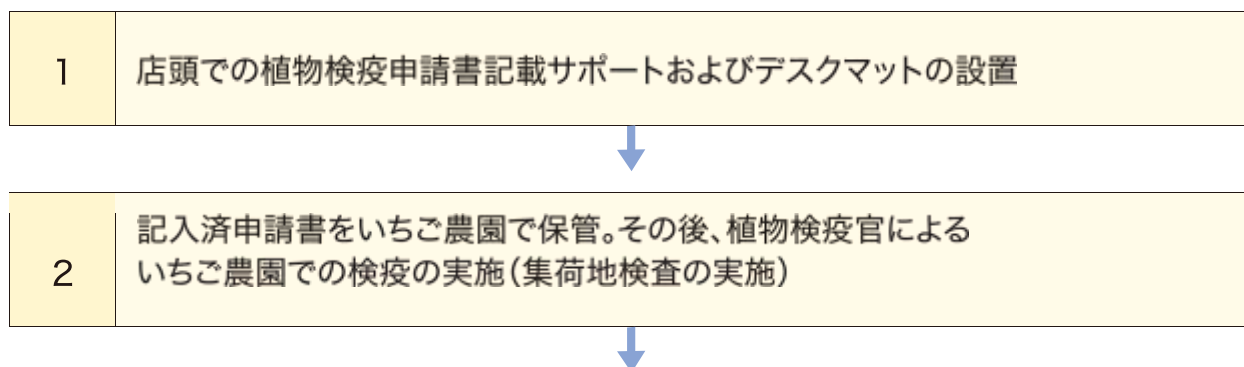


※ 輸出検査について、植物防疫所の訪問による輸出植物検疫（集荷地検査）を行うモデルも実施した。

いちご農園や直売所の店頭におけるモデル販売は、以下のとおり実施した。具体的には、観光農園で販売したお土産農産物を、空港へ送付し、空港で受け取った旅行会社空港営業所の担当者が、検疫代行をおこなうモデルである。受検後の農産物は、旅行会社カウンターで冷蔵保管し、訪日外国人旅行者の帰国日に商品の受け渡しをした。なお、このモデルは、商品の購入後、商品の空港への配送や検疫代行の時間が必要であるため、訪日外国人が商品を購入してから帰国するまでの日数を考慮する必要がある。このモデル販売のフローは、次の5つのステップで構成される。



なお、観光農園で販売したお土産農産物を、植物防疫所の検査員が観光農園へ訪問して受検をおこない、いちご農園が検査受検後の農産物を帰国日にあわせて空港に配送し、空港で商品の受け渡しをおこなうモデルも実施した。また、このモデルについても、商品の購入後、商品の空港への配送や検疫代行の時間が必要であるため、訪日外国人が商品を購入してから帰国するまでの日数を考慮する必要がある。このモデル販売のフローは、次の5つのステップで構成される。



3	検疫済商品をいちご農園が、空港(JTB福岡空港営業所)へ配送
---	--------------------------------



4	JTB福岡空港営業所が検疫済商品を冷蔵保管
---	-----------------------



5	JTB福岡空港カウンターで、訪日外国人旅行者に商品の受け渡し
---	--------------------------------

・モデル販売の関係者リスト

販売事業者	【いちご農園】 ・ストロベリーフィールズ ・ホワイトベリー ・らいおん果実園 【直売所】 ・西日本高速道路サービス・ ホールディングス(株) 九州支社事業部 店舗支援課	TEL : 092-400-3239 TEL : 0944-32-1200 TEL : 0946-42-5556 TEL : 092-518-6082
物流事業者	ヤマト運輸(株)九州支社	TEL : 092-931-3310
引き渡し者 (検疫受検代行者)	JTB福岡空港営業所	TEL : 092-624-1000

旅行会社	JTB(THAILAND) LIMITED タイ・インドネシア旅行会社 (ミラマー、ジョイフルホリデー、ATS)	http://jtbthai.com/
-------------	---	--

・実績

(図表12) 福岡県のモデル販売の実績(団体客)

【団体客:10名以上】

いちご農園	ツアー数 (タイ人旅行客)	客数	購入者数	販売数	購入率
ストロベリー フィールズ	11	278人	101人	132箱	約36.3%
ホワイト ベリー	8	198人	90人	90箱	約45.5%
らいおん 果実園	1	19人	2人	11箱	約10.5%
中野 果実園	1	18人	3人	7箱	約16.7%
JAふくおか 八女直売所	2	120人	33人	94箱	27.5%
JAふくおか八女直売所 (バス車内販売)	1	18人	13人	16箱	約72.2%
総計	24	651人	242人	350箱	※購入率平均値 約37.2%

(図表13) 福岡県のモデル販売の実績(個人客)

【個人客:9名以下】

いちご農園	グループ数 (タイ人旅行客)	客数	購入者数	販売数	購入率
ストロベリー フィールズ	22	83人	6人	53箱	約7.2%
ホワイト ベリー	3	11人	1人	1箱	約9.1%
中野 果実園	3	14人	3人	8箱	約21.4%

総計	28	108人	10人	62箱	※購入率平均値 約9.3%
----	----	------	-----	-----	------------------

・モデル販売における成果と課題

福岡のモデル販売において、モデル販売終了時期にあわせて、次年度以降の取組方法を模索するため、モデル販売における課題等について、関係者を集めて事業者報告会を開催した。開催概要は以下のとおりである。

おみやげ農産物植物検疫受検円滑化支援事業 福岡モデル販売報告会

1. 日時：平成28年3月8日（火）15:15～17:30

2. 会場：福岡空港国内線第2ビル2階会議室

3. 出席者：

- ・(株)ちくしの農園(ストロベリーフィールズ)
- ・農事組合法人 ホワイトベリー
- ・JAふくおか八女
- ・(株)JTBビジネスサポート九州 福岡空港営業所
- ・ヤマト運輸(株) 福岡物流支店
- ・福岡県 県庁担当者
- ・農林水産省 担当者および門司植物防疫所担当者

同報告会で紹介された成果と課題を以下のとおり整理する。

《成果》

- ・観光農園を訪れた旅行者に、検疫を経ていちごをお土産として持ち帰る方法があることを周知できた。
- ・地域の販売事業者が、訪日外国人旅行者にお土産として、検疫を経ていちごを販売することが可能であることを認識し、新たな販路として確立が期待される。
- ・関係した販売者と生産者が、検疫に対する国別の対応の違いが理解でき、お客様に積極的にお土産を販売できる素地が出来た。
- ・事業を通じて、関係者が輸出植物検疫受検の知識を習得できた。
- ・福岡空港国際線出発ロビーにいちご保管用の冷蔵庫を設置出来た。(期間限定)
- ・日本滞在中は手ぶら観光をした上で、輸出植物検疫を実施のうえ、商品を空港で受け渡す取組が実現した。いちごを購入したタイ人旅行者のほとんどから、便利であったとの回答が得られた。

《課題》

■店頭での申請書の記載サポートについて

- ・外国人相手なので、言葉の壁が問題であり初期段階は苦労した。
⇒団体のツアーガイドが同行する場合は、手助けをしてもらえた。回を重ねていくうちにスタッフも慣れてきた。
⇒各国語での説明資料があると便利であり、デスクマットの活用は効果的だった。

■お土産品の空港までの輸送および空港での保管について

- ・本モデルにおいて観光農園側が保管し検疫代行者に送付する必要のある記入済の検査申請書を、訪日外国人旅行者が持ち帰る事態があり、商品と一緒に検査申請書を送付できなかった。
⇒購入者とメールによるやり取りができ、申請書に記載すべき申請者の情報が入手できたので大事に至らなかったが、検査申請書を持ち帰らないよう、販売場所での徹底した周知が必要である。
- ・国際線カウンターに冷蔵保管の設備がないケースでは、検査を受けてから訪日外国人への受け渡しまでの保管がネックになると考えられる。
⇒本事業ではリースとして期間限定で冷蔵庫を設置した。今後取組を継続するためには、空港で冷蔵保管ができる設備の恒常的な設置にむけて、JSTO九州支部および今回事業の関係者間でコスト負担の面も含めて継続的に検討していく必要がある。

■検査受検の代行について

- ・商品梱包箱の形状により、受検時の開封、終了時の再梱包に手間がかかった。
⇒課題の発覚後、開封および梱包、運搬しやすい形状の梱包材を開発し、検査が受けやすくなった。

■検査受検の実施について

- ・輸出検査については、福岡空港のカウンター等において問題無く実施できた。なお、本事業における計252件、412箱の検査に要した時間の累計は、検査時間、証明書作成等の作業時間をあわせ約80時間程度であった。

■帰国の際の訪日外国人旅行者のいちごの受け取りについて

- ・当日、購入した訪日外国人旅行者が旅行会社カウンターにいちごを受け取りに来ない事例があった。（別事業者の団体ツアー、とくに添乗員付ツアーは、お菓子などのお土産品の一部を航空会社のチェックインカウンターへ届けるサービスをしているため、訪日外国人旅行者がカウンターまで来る手間をかける必要性がないと誤認したと想定される）
⇒観光農園で引き取り場所の周知はしているが、今後本事業のモデルのような取組を実施する場合、受け取り場所の説明を徹底する必要がある。

■次年度以降に事業者が自主的に取り組む際の課題等について

- ・いちごのみでは無く、他の農産物等も含めた年間を通しての取組となれば、空港等での冷蔵庫の設置等の設備投資も踏まえ、より民間が取り組みやすいビジネスチャンスとなる。
- ・本事業で実施したモデルを実施する場合、商品受け渡しや検疫の代行の役割を担う事業者が居る必要があり、自主的に取り組む場合は、それらの対応コストを商品(いちご)の商品価格などに転嫁する等の検討が必要である。
⇒販売者が販売価格に転嫁する、または、販促費として販売者が負担する等の継続検討が必要である。

＜その他検疫面以外の課題＞

■生産面での課題等

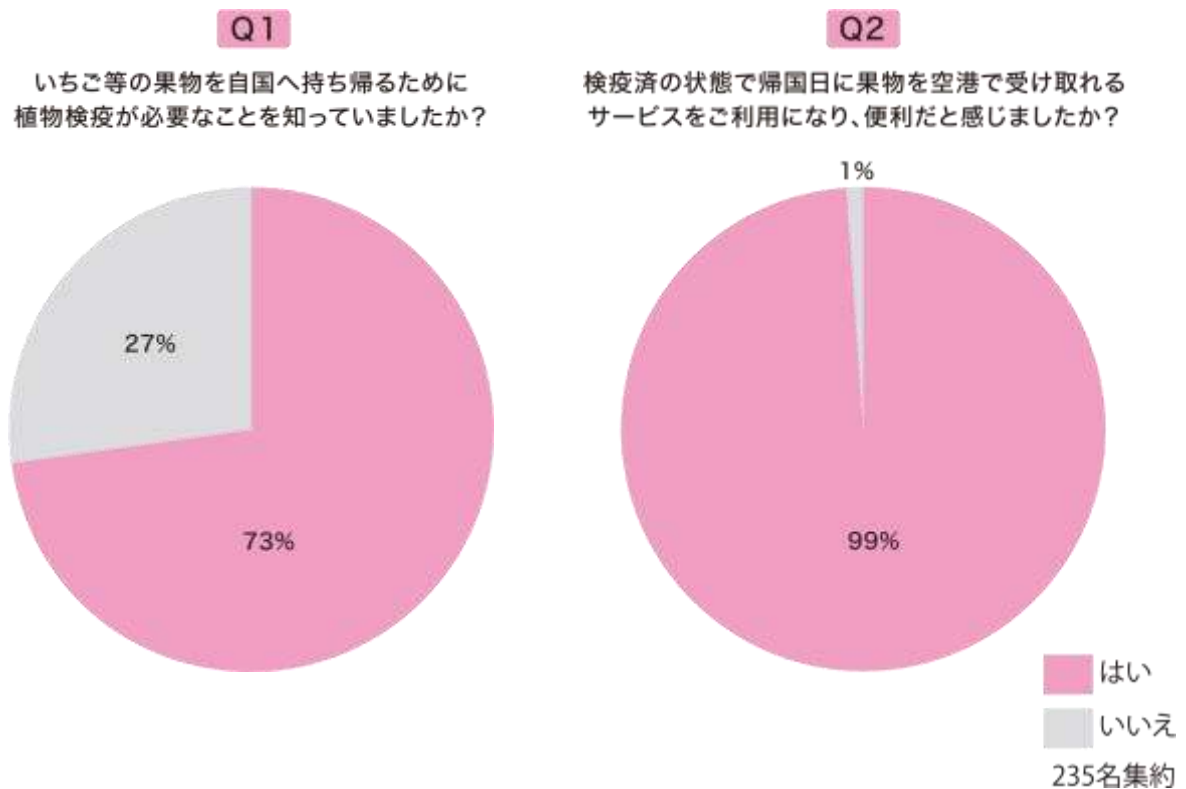
- ・特に週末には日本人含めて多数の来園者がいるが、いちごの生産量には限界があるため、お土産販売用のいちご生産が追い付かず、お土産用にいちごを提供できる余裕がない観光農園があった。(なお、平日に外国人客が多く、土日は日本人が多くなる傾向)
⇒近隣農園よりいちごを集めて対応した。(販売数190箱程度のなかで不足分は約40箱程度であった。)

2.3アンケート調査結果

福岡県における訪日外国人旅行者アンケート結果

モデル販売の実施と並行して、いちごを購入した訪日外国人旅行者にアンケート調査を実施した。アンケート結果は図表14のとおりである。

(図表14) モデル販売におけるアンケート結果
(輸出検疫、検疫代行サービスに関する認知度調査)



3.今後の展開について

訪日外国人旅行者が年間2,000万人に近づくなか、訪問範囲や活動内容が都市部から地方観光エリアまたその周辺地域へと広がっている。事実、今回モデル販売に参画した福岡のいちご農園への訪問人数も2014年度は、年間1,500人であったところ、2015年度は3,000人に達する見込みである。また、いちご農園に来る訪日外国人旅行者も香港や韓国、タイ人、シンガポール、マレーシア人等、国籍も幅広い。このような背景から、今後も訪日外国人旅行者が地方に活動範囲を拡げていくことにともない、地域農産物の販売拡大も期待される。

その一方で、国内の販売事業者側の体制整備が急がれる。今回のモデル販売で明らかになった課題に加えて、高齢化による生産者数および作付面積の減少傾向への対応も大きな課題である。このため、今後は、観光農園の個々の活動とあわせて、地方自治体や民間が連携した対応が求められる。地域のJA等と連携することによって、訪日外国人旅行者に対する、お土産農産物が安定的に供給できる体制整備が構築されることも期待される。

また、上述した高齢化等の問題により、お土産農産物の準備や配送も効率化が必要である。本事業におけるモデル販売の受検円滑化フローは、モデル販売関係者のヒアリングからも機能的な仕組みであったと考えられ、お土産農産物の販売拡大につながる効率的な手法の一つと考えられる。また、メロンやいちご以外の商品の取扱いへの汎用も期待され、今後、ビジネスチャンスの拡大につながりうる。

ただし、今年度は商品の保管箇所や検疫代行者であるJTB等に対して、カウンター利用料を補助事業費から支払うことで、本事業モデルを成立させている。今回実証した、空港で検済済みの商品を受け渡す販売モデルを実現するには、空港での商品受け渡しスペースを物理的に保有するJTBやヤマト運輸等の関与が不可欠であるため、来年度以降、自主的に取組がおこなわれていくには、JTB等へ支払う費用の捻出方法について、検討を深めていく必要性がある。たとえば、以下の2つの方法が考えられる。

一つは、価格へ転嫁する方法である。福岡でのアンケート結果では、ほぼ全ての訪日外国人旅行者が、検済済の空港デリバリーサービスを便利であると答えている。より便利に買い物ができるという点においては、訪日外国人旅行者が受益者となる。受益者負担の考え方によれば、商品価格に転嫁する方法が論理的と言える。価格への転嫁については、お土産商品（いちご等）に転嫁する方法に加えて、物流代に転嫁する方法が考えられる。単に保管コストを物流代に転嫁するだけでなく、物流企業側で検疫を代行したうえで空港受け渡しする等、さらなる付加価値をつけた新サービスとして、今後の開発検討が必要である。配送や検査代行対応のコストを商品価格に転嫁する場合、訪日外国人旅行者の購買意欲がそがれてしまう可能性もあり、慎重な価格設定が必要となる。

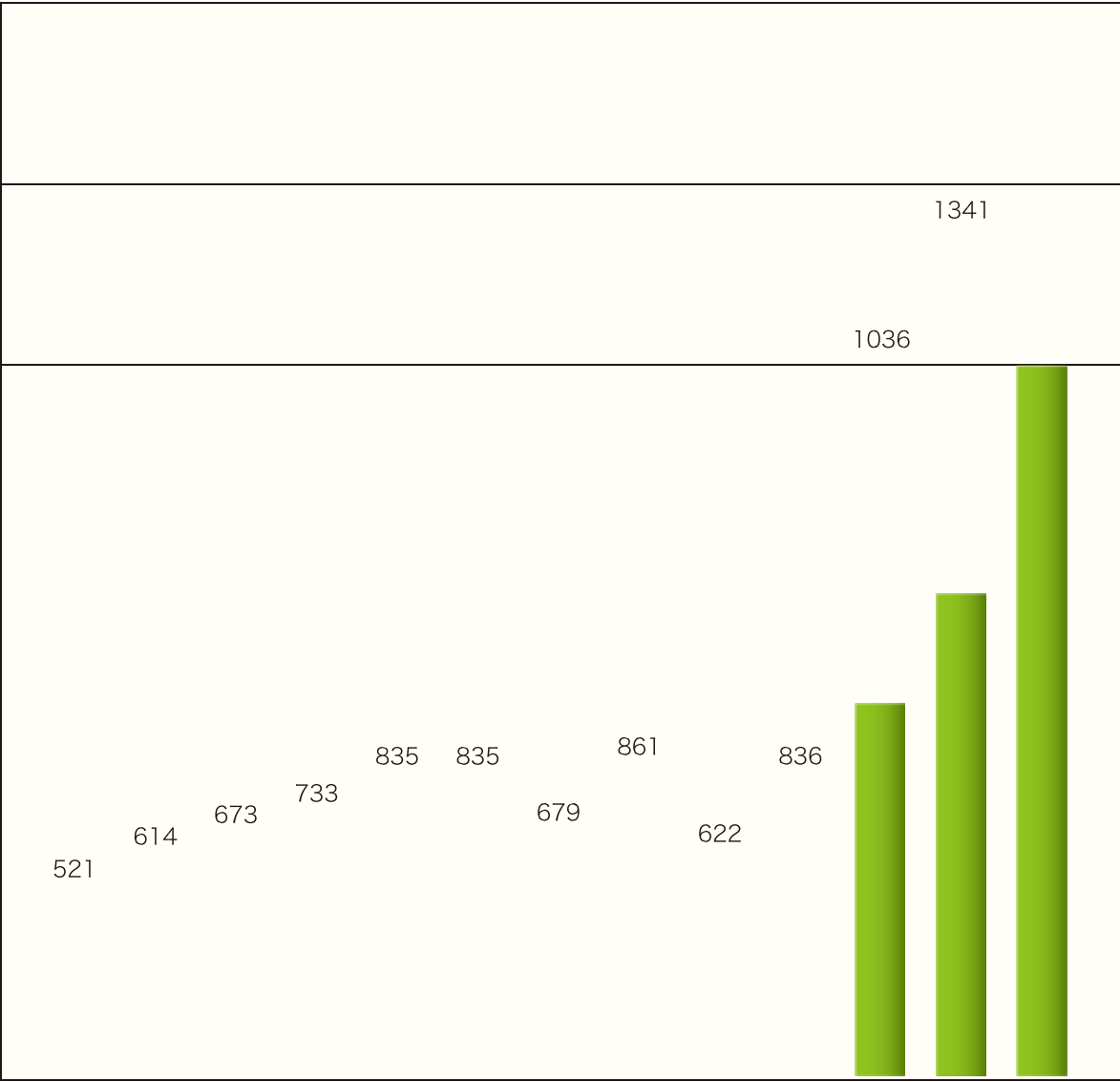
いま一つは、販売事業者の販促費として見込む方法である。ただし、販促費に見合うほどの販売増加につながるかの実証は実現できておらず、今後の検討課題になる。

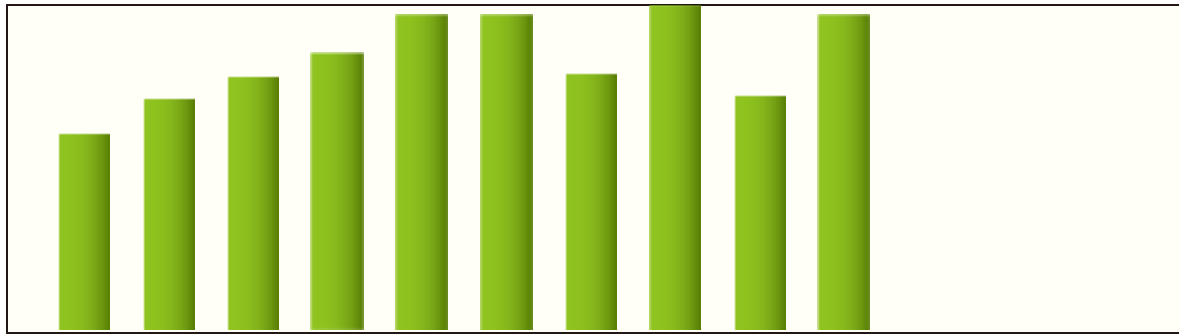
その一方で、保管や商品の受け渡しについては、より安価な方法を探ることも必要である。さらに、今回のモデル販売では顕在化しなかったものの、商品劣化等によるクレームや返金等に対する責任箇所を決める等の検討素材もある。

前述した検討を継続するには、地域において、指揮的な役割を果たす組織が必要なことは、福岡の報告会において一致した見解である。JSTOとしては、今回のモデル販売の対象地域で活動する支部を主体的な活動母体として、今後も検討を継続していきたいと考えている。

また、この取り組みが、北海道や福岡以外の地域へ広げていくための支援を継続していく予定である。JSTOは、今後もお土産農産物の販売拡大を目的とする検疫円滑化の支援および外国人に対して日本農産物のショッピングの魅力を伝えていきたいと考えている。なお、現在北海道と福岡における取り組み状況として、モデル販売に関係した事業者や地方自治体から、「年間を通しての取組となれば、他の商品の拡大も期待ができ、十分、今後のビジネスチャンスになりうる」や、「このような取組が年間を通して発生すれば、業務拡大のため設備投資する考えはある」といった積極的な意見が出ている。そのため、今後は、JSTO北海道支部・九州支部が中心となり、今回モデル販売を実施したことにより得られた知見を集約し、地方自治体と連携しながら、同販売スキームの自走化に向けて検討を継続していきたいと考えている。

以上





訪日外国人旅行者数の推移

(万人)
2000

1974

1500

1000

500

0

平成15 平成16 平成17 平成18 平成19 平成20 平成21 平成22 平成23 平成24 平成25 平成26 平成27(年)
2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015(年)
(出典:「日本政府観光局(JNTO)」平成28年1月19日発表)

※上記数値のうち2014年(平成26年)までは確定値、2015年(平成27年)は推定値

※訪日外国人旅行者とは、国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者数から日本に居住する外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のことである。

<参考資料>

参考資料 1：訪日外国人旅行者の概況

1.1 訪日外国人旅行者数の動向

平成28年1月19日付で観光庁より発表されているデータによれば、震災があった平成23年以降、訪日外国人旅行者数は順調に増加している。また、税制面での優遇措置もあり、さらに「日本へ観光したい」と魅力を感じてもらえる環境が整ってきたといえる。

また、平成28年1月19日付で観光庁より「【訪日外国人消費動向調査】平成27年（2015年）年間値（速報）および平成27年10-12月期の調査結果～年間値で初めて3兆円を突破！中国人の買物支出が牽引～」との発表もなされている。